

## 冬の安曇野暮らしを体感

1月26日 日帰り移住ツアー



市内をバスで回りながら暮らしの様子を見学する日帰り移住ツアーが開かれ、移住を検討する県外在住者16組28人が参加しました。この日は、市民が集う公共施設として三郷交流学習センター「ゆりのき」とANCアリーナの見学、市空き家バンクに掲載された不動産物件の内見が行われました。

愛知県から訪れた参加者は、「建築士さんが解説してくれたので、中古物件を見るポイントがよく分かった。バスの移動中にお話いただいた情報で、移住後の生活のイメージがつかめた。仕事が見つかるなら現実的に移住を考えたい」と話してくれました。

## 開山の祖に思いを巡らせる

2月5日 三郷の宝教室 槍ヶ岳開山 播隆上人



冊子「三郷の宝」をもとに地域史の理解を深める講座が三郷交流学習センター「ゆりのき」で開かれました。この講座は三郷公民館が通年開催しているもので、今回の「槍ヶ岳を開山した播隆上人」には約50人が参加。松本平の新田開発や信飛の交易路「飛州新道」の開削など、当時の時代背景を交えながら播隆上人が槍ヶ岳を目指した足跡に思いを巡らせていました。

真剣なまなざしで講座を聞いていた布山則男さん(76・三郷小倉)は「登山ルートが知れて良かった。どのような服装や装備を持って行ったのかももっと知りたくなった」と講座の続編を期待していました。

## まだ知らない オランダの魅力

2月2日 共生社会づくり講座



「世界を知ろう、触れ合おう！オランダ編」が豊科交流学習センター「きぼう」で開かれ、62人の参加者がオランダの魅力に触れました。当日は同国出身で市外国籍市民相談窓口で働くフルシュ・ラルス相談員(31)が歴史や文化を紹介。風の強い日が多いことに触れ「嵐でもみんな平気で自転車に乗って出かける」など、時折ユーモアを交えて話し、会場は笑い声に包まれました。今月家族でオランダ旅行を予定している鈴木隆子さん(48・松本市)は「国の歴史を意識する文化に日本との違いを感じた。旅行が何倍も楽しみになった」と話してくれました。

## 足早い春 チューリップに夢中

1月2日～26日 アイスチューリップの庭



冬に花を咲かせるアイスチューリップが国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区で見頃を迎えました。黄色やピンクなど6品種約1万2000本が咲き誇るあづみの学校多目的ホールには、絵本作家・いわさきちひろが描いたイラストが飾られ、絵本の中のような世界観をチューリップと共に演出していました。

同じ区に住み、毎年訪れているという岡里みつさんと平林由美さん(三郷明盛)は「これほど咲いているとは思わなかった。ふんわりとした温かい絵とチューリップが調和していて、春を感じられる」とほほ笑んでいました。

## 甘酸っぱい香りに 幸せいっぱい

2月8日 冬季親子体験ラボ アップルパイ作り

親子でアップルパイを作る体験講座が堀金公民館で開かれました。参加した小学生と保護者4組9人はリンゴを煮詰めてジャムにし、はみ出さないように生地地で包むなど、手作りならではの時間を満喫。パイの表面には包丁で切り込みを入れるなど、思い思いに工夫を凝らしていました。

普段から料理をしているという渡部日茉莉さん(11・穂高柏原)は「アップルパイ作りは初めて。難しいところもあったけど、家族で力を合わせて楽しめた」。母親の悠美さん(40)は「包丁の使い方が上手になっていて、子どもの成長を感じた」と話し、共に参加した柚乃花さん(7)と出来たてを味わっていました。



## 足跡から居場所を探る 狩猟のコツをハンターが伝授

1月26日 ハンターと歩く里山

現役のハンターが案内人を務める「ハンターと歩く里山」が穂高牧の山林で行われました。このイベントはさとぶろ。と市猟友会が主催し本年で8回目。参加した19人は3班に分かれ、獣の足跡を探したり狩猟のコツを教わったりしながら冬の里山散策を楽しみました。昨年参加した渡邊優作さん(42・穂高)は、今回はハンターとして案内サポートを担当。参加者に笑顔でハンターの魅力を伝えていました。

昼には市猟友会特製のイノシシ肉カレーが振る舞われ、参加者は脂がのったイノシシの肉の味に舌鼓を打っていました。三宅雅也さん(52・穂高有明)は「普段できない貴重な体験。興味深い話も聞けて楽しかったし、イノシシ肉はジューシー。今年狩猟免許を取りたい」と話してくれました。

